

結晶用い新材料開発

高校の化学実験で観察した、過飽和溶液から結晶が析出する際の神秘的な現象に魅せられて化学の道に進んだ。現在も過飽和溶液や結晶を用い、バイオメディカル応用のための新材料・新技術を開発している。思い通りに結果が出ないこともあり苦労も多いが、仮説を立証できた時や目標の機能を達成できた時など、うまくいった時の喜びややりがいも大きい。

職場である産業技術総合研究所（産総研）は国内最大級の公的研究機関であり、男女共

凛としていきる

# 理系女性の挑戦

## 健康管理を第一に両立

同参画にいち早く取り組んできた。女性にも男性にも、さまざまなライフイベントと両立しやすい職場環境が整えられている。私も3人の子供（5歳・7歳

・9歳）を育てながら日々研究に打ち込んでいる。ライフイベントと仕事の両立を図る上では、ハード面と共にソフト面の環境も重要である。幸い私の出産・授乳期は、理解ある上司・共同研究者と優秀な技術スタッフがこころをこめてサポートしてくれている。日々のサポートに加え、イクメンの夫、両親、ご近所の助けもあり、ソフトとハードの両面で恵まれていた。

私の出産・授乳期は、理解ある上司・共同研究者と優秀な技術スタッフがこころをこめてサポートしてくれている。日々のサポートに加え、イクメンの夫、両親、ご近所の助けもあり、ソフトとハードの両面で恵まれていた。

むしろ、両立の妨げとなつたのは、自分自身の心の持ちようであった。出産・授乳期には仕事に割ける時間が減り、どうしても研究活動が滞ってしまう。当時の私は、その現実を受け入れることができず、出産前の自分や周囲の研究者と比較して無理をしすぎ、体調を崩してしまつたのだ。数週間の療養が必要になり、結果として周囲にさらなる迷惑をかけてしまい、反省しきりだった。以降、ワークとライフのバランスを状況に応じて変化させつつ、まずは自身の健康管理を第一に考えることにしている。

興味・関心を深めていってほしい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）  
（火曜日に掲載）

産業技術総合研究所  
主任研究員  
大矢根 綾子  
（おおよね あやこ）



「プロフィール」02年（平14）京大理工学研究所博士後期課程修了、博士（工学）。産総研研究員を経て09年より現職。13年守田科学研究奨励賞、14年文部科学大臣表彰若手科学者賞。



晶析出の体験実験